

学外発表学術論文及び国際会議発表論文，著者一覧表（vol. B）

太字は学内者を示す

(the boldface indicates
the member of the
Okayama Univ. Sci.)

学術論文

人文科学

- 村島義彦**：内なるニヒリズムについて—教育学の対応課題としての—，半田山教育，7，21-35（1993）。
- 加計美也子**，**村島義彦**：陶冶理想としてのパイデア—プラトン『国家』における（Part III）—，順正短期大学研究紀要，21，259-276（1993）。
- 加計美也子**，**村島義彦**：陶冶理想としてのパイデア—プラトン『国家』における（Part IV）—，順正短期大学研究紀要，21，277-296（1993）。
- 村島義彦**：宇宙意識（Part I）—人間の心の進化を研究する—，国際教育研究所紀要，2，37-62（1993）。

社会科学

- 別惣淳二，**河野昌晴**，岡東壽隆，**小山悦司**：教師教育に対する教育工学的アプローチの導入に関する研究，国際教育研究所紀要，2，1-26（1993）。

その他

- 野崎緑朗**：岡山県における数学教育の現状と教員養成のあり方に関する研究(1)—中学校数学教育の現状—，学術，文化，芸術，教育活動に関する研究論叢（財団法人両備樗園記念財団），7，51—60（1993）。
- 曾我雅比兒**：書評：『教育制度』，教育行財政研究，18，69—73（1992）
- 曾我雅比兒**：岡山県公立学校教員の現職教育の組織化に関する研究，学術，文化，芸術，教育活動に関する研究論叢，6，19—26（1993，1991）

国際会議（Proceedings of International Conferences）

社会科学

- 羽村省太郎**：Toward A Theory of the Family Under the Consitution of Japan, International Society on Family Laws (ISFL) , 1993 North American Family Law Conference, (Moran, Wyoming, U. S. A.) (1993年6月10日)

著書 (Books) 及び解説 (Reviews)**人文科学**

村島義彦：「修辞学校」「スパルタの教育」「パイダゴゴス」の項を執筆。『現代学校教育大事典（全7巻）』，ぎょうせい，東京（1993）。

社会科学

赤木恒雄：「I 旅立ちする新しい家族」『ちゅうごく地方発 生涯学習のライフデザイン』，第一法規（中国支社），広島市（1992）。

渡辺 基・岸田芳朗・由比浜省吾・高橋香代・古元順子・青木三恵子・藤本玲子・笠井八重子・服部一美・今田節子・三垣 充・高橋正徳・**吉田敏治**・猪俣伸道：いま食を考える，弘学出版，川崎市（1993）。

岡山理科大学紀要投稿規定

(投稿資格者)

第1条 岡山理科大学（以下「本大学」という）紀要への投稿有資格者は、次に掲げる者とする。

- (1) 本大学の常勤の教員，職員。
- (2) 本大学院博士課程に在籍中の学生，又は在籍したことのある者。
- (3) 本大学院修士課程，及び本大学研究員として在籍中，又は在籍したことのある者。

(投稿内容)

第2条 投稿内容は次のとおりとする。

- (1) 他誌に未掲載の学術論文（以下「原論文」という）。
- (2) 博士論文要旨。
- (3) 学外発表論文題目の一覧。
- (4) 本大学教職員が中心となって開催した全国的，又は国際的規模の学術研究会要領一覧。但し，全国的規模の学術研究会とは，学会の中四国支部会程度以上のものが開催，後援，協賛などを行うものを意味する。

(著者等)

第3条 原論文の投稿は，代表著者（筆頭著者）1人につき，原則として年1編とする。

共著の場合，代表著者は有資格者とし，他に無資格者を含んでもよい。但し著者の身分を明記する。本大学院修士課程に在籍中の学生，または在籍したことのある者，および研究員は指導教員との連名のもとで，筆頭著者となることができる。

(発刊)

第4条 紀要の発刊は，原則として年1回とし，A自然科学，B人文・社会科学の2分冊とする

(投稿申込)

第5条 原論文を投稿しようとする者は，論文題目と掲載を希望するA・B分冊のいずれかを指定して，7月末日までに紀要委員会に申し込むものとする。

2. 前項の申し込み者は，原稿締切日9月30日までに原稿を紀要委員会に提出する。

(論文の受理)

第6条 紀要委員会は，投稿された論文についての採否を決定し，その日をもって受理日とする。

(原稿の作成)

第7条 原稿の作成上留意事項は，次のとおりとする。

- (1) 原稿のスタイルは「紀要原稿作成要領」に従う。
- (2) 提出論文は，原則として英語，独語，仏語などの主要外国語のいずれかによる表題，

著者名および150字以内の摘要をつける。但し、外国語で書かれたものは、その必要はない。

- (3) 掲載論文は、岡山理科大学紀要Aは1編刷り上り15ページ以内、岡山理科大学紀要Bは1編刷り上り30ページ以内とし、これを越える場合は受理しない。
- (4) 原稿は原則として、所定の用紙に清書する。
但し、欧文原稿の場合は、タイプライター又はワードプロセッサを使用する。
- (5) 原稿はコピーではなく、原文とする。

(校 正)

第8条 校正は速やかに行うこととし、内容および図などの変更、追加は原則として認めない。

2. 印刷業者との連絡を必要とする場合は、紀要委員会を通じて行うものとする。

(刷り上がり)

第9条 別刷りは、論文ごとに30部を無料配布とし、増刷分の費用は、申し込み者負担とする。

2. 希望増刷部数は、紀要委員会に申し込むものとする。

(付 則)

1. この規定は、昭和63年7月より実施する。
2. この改正規定は、平成5年2月より実施する。

岡山理科大学紀要作製要領

本原稿作製要領は、紀要が書式の統一された出版物としての体裁をもつ事、及び原稿の校正が2校で完了する事を目指すためのものである。

紀要の内容はその性格上、多方面にわたっており、したがってある程度の書式の不統一は免れないものと考えられる。しかしながら統一することが可能であり、かつその分野にとって、その書式が必要不可欠であるもの以外に関しては、紀要投稿規定をもとに以下の要領・書式を参照・採用されることで、一つの出版物としての書式統一をめざしたい。

I 紀要論文

1. 原論文の書式に関する注意

1-1 和文原稿

- 手書き原稿の場合は紀要委員会より配布された所定の原稿用紙に記入した原稿を提出する。黒または青のペン、ボールペン等で清書し鉛筆の使用は認めない。
- 日本語ワードプロセッサを使用する場合には1行を40文字とする。
- 提出原稿への書き込み、訂正などは原則として許されないが、止むを得ずこれを行う場合には、所定の原稿用紙に貼り付けるなど、見やすい方法で行う。
- 外国語適用の場合には、外国語原稿の書式に準ずる。
- 紀要の印刷上がりは、1ページ40文字×35行=1,400文字である。

1-2 外国語原稿

- 原稿はタイプライター又はこれと同程度の印字能力を持つプリンター（例えば24ドット以上のもの）を使用し、清書したものを提出する。
- タイプ用紙はA4版を用い、ダブルスペース、10ピッチでタイプする。
- 一単語が行間にわたる場合、ハイフンの付け方は慣用に従うこと。

2. 文章の構成

2-1 和文

- 章に相当する表題は左詰めとし、字体はゴシックとする。
- 章に表題がなく番号のみの場合はローマ数字とする。
- タイトル（章番号）の上は1行分あける（空白行とする）。
- タイトル（章番号）の次の行から本文を書き始める。
- 章中の小項目のタイトルは、上を1行あけ、字体は並活字とする（ゴシックとしない）。但し、章タイトルに小項目のタイトルが続く場合、この間に空白行を設けない。
- 図、写真、表の本文中の位置は、原稿の右端欄外に赤色で記入する。
- 英文要旨の題名は各単語の先頭文字のみを大文字とする。

2-2 外国語

- 章に相当する語は左詰めとし、ゴシックとする。また全ての単語の先頭文字のみを大文字とする。(前置詞, 接続詞, 冠詞は大文字にしない。)
- 章内の小項目は左詰めとし、並活字とする。
- summary, abstract 等の見出しはつけない。
- Acknowledgement の前には番号をつけない。

3. 活字の指定

論文中の特殊な文字については、次の要領にしたがって赤色で指定する。

「別紙1」参照

4. 図, 写真について

4-1 図の番号, 説明文など

- 特に必要のない限り, 本文中の図と写真は同一のアラビア数値を用いた続き番号とする。章と同じ形式の番号(1-1, 1-3)等とはしない。
- 原則として番号を図(写真)の下に記入する。
- 図版の番号, タイトル, 凡例解説, 説明文は一読することで, 内容が明らかとなる内容とし, 次の例を標準とする。

図1 岡山理科大学の現状

Fig. 1 紀要に於ける図の書き方

Fig. 1 Thermal stability of ……

- 図版のタイトル・説明文などは別の用紙にまとめる。

(図の説明文例) 理大太郎・山田花子: 図版説明文原稿

図1 ペプチドの溶出時間と疎水度の関係

Fig. 2 Seasonal fluctuation in numbers of eggs.

4-2 図版の作製

- 原図の作製においては黒色を使用する。
- 図版はそのまま縮尺し印刷とするので, ケント紙・厚手のトレーシングペーパーなどにレタリングし, 線・印などを鮮明に描くこと。原則としてコピーした図は認めない。
- 原図の縮尺率は, 原寸大から50%の範囲とする。
- 原図中の線や印は縮尺率を考慮し, 大き過ぎたり, 小さ過ぎたりしないようにする。

4-3 図中の文字

- 原図の印や文字は, 予め著者が記入しておく。

- 図版中の印や文字は印刷仕上がりと同様大きくなるよう配慮する。
- 図版中の文字に漢字などを含み、著者が予め記入することが困難な場合には、写植文字を入れ込むよう鉛筆で薄く指示しておく。
- 写植文字を貼り込む場合、活字の大きさ、活字の種類を指定し、原図あるいは原図の上にかぶせたハترون紙上に鉛筆で書き込む。

4-4 印刷に関する指示と注意

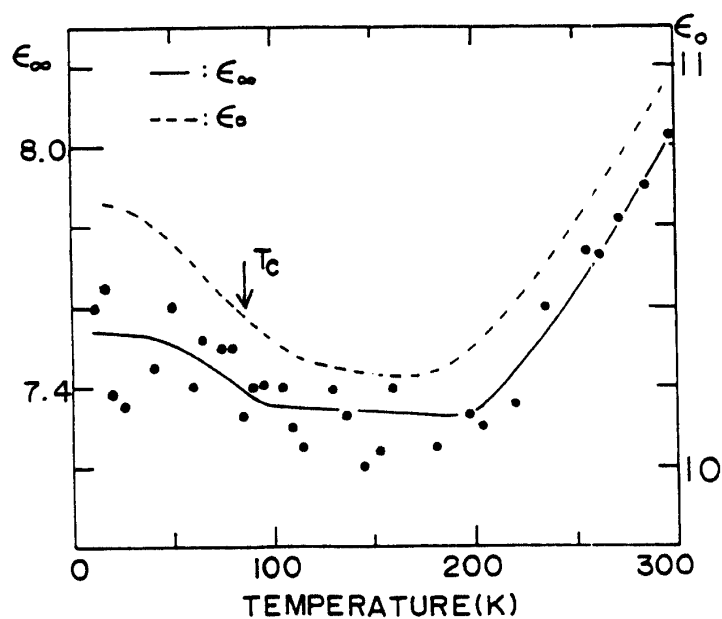
- 印刷に関する指示は薄い青色で書き込む。
- 汚損や貼り付け部の剥離の可能性がある図は、半透明の紙で上面を覆い、この紙の上に印刷に関する指示を記入する。
- 図版の紛失を防ぐため、図版の左上、印刷領域外に著者名、大学名、図版番号、縮尺を記入する。
- 縮尺率の指示は、仕上がり 6 cm 幅とする。但し特に必要な場合は、9 cm, 12 cm を用いる。
- 図の説明文中に図中の印を用いる場合は、可能な限り図中の印と同じ大きさとなるよう指示する。
- 写真ページをアート紙とする必要がある場合には、その旨を明記しておく。
- カラー写真は原則として載せないが、必要のある場合は実費とする。
- 印刷に入ってからの大巾な内容変更や文章訂正を認めない。

Fig. 2

岡山理大 山田太郎

6 cm

(提出原図の例)



5. 表について

- 表は極力小さくし，原則として縦線は入れない。又横線も極力省く。(例を参照)
- 表の番号は図版と同様とする。
- 表のタイトルは表の上端中央に記し，凡例解説等は下端に記し，左詰めとする。
- タイトルは次の様式とする。

(表 I) 理大紀要の表の書き方

Table I 理大紀要の表の書き方

Table II Okayama University of Science

- 日本語を含まない簡単な表については，著者において，図版と同様な方法により原版を作製し，そのまま縮小するので，これに耐えられるきれいな表にする。

(例)

Tabla II Weighted average concentration of nutrilent
element in rain water. ppm

| | Throughfall | | | incident precipitation |
|----|-------------|-------|-------|---------------------------|
| | P-1 | P-2 | P-3 | |
| Ca | 1.07 | 0.74 | 0.73 | 0.20 |
| Mg | 0.39 | 0.33 | 0.27 | 0.085 |
| K | 2.13 | 1.97 | 1.44 | 0.30 |
| Ha | 0.81 | 0.76 | 0.66 | 0.47 |
| P | 0.091 | 0.078 | 0.076 | 0.073 |

6. 提出時及び校正時における原論文のチェック

6-1 提出時

- 文字の記載 (明瞭な文字，大文字，ギリシャ文字の指定)。
- 活字の指定の有無。
- 図，表の挿入位置及び縮尺指定。
- 主要外国語要旨の添付。
- 表紙及び主要外国語要旨欄で著者の所属を記入する。
- 欧文表題は各単語の先頭文字のみ大文字とする。

- 印刷に関する指示が薄い青色で書かれていること。
- 印刷に入ってからの大巾な内容変更や文章訂正のないことの確認。

6-2 校 正 時

- 文章，表，図面等の配置の調整。
- 図面，表のバラツキはないか。
- 原稿の校正は2校で終了できるよう，校正は厳密にしてあるか。
- 印刷文字は1頁が40字×35行=1,400字とする。

II 博士論文要旨

前年10月1日～本年9月30日の間に，授与された博士論文の要旨を掲載する。論文のタイトル，審査内容を合せて刷り上がり2ページ以内とする。

欧文の場合：ダブルスペース，10ピッチでA4タイプ用紙3枚程度

和文の場合：400字詰原稿用紙で6枚程度

1. 内 容

| | |
|----------|---|
| 氏名・(本籍) | 岡山太郎 (岡山県) |
| 学位の種類 | 理学博士 |
| 学位記番号 | 理博甲1号 |
| 学位授与の日付け | 平成 年 月 日 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第5条第1項該当 理学研究科 材質理学専攻 |
| 学位論文題目 | |
| 論文審査委員 | 主査 岡山二郎 副査 山田太郎，山田二郎，X ₁ X ₁ X |

2. 要 旨

刷り上がり2ページ以内とし，主査が投稿責任者となる。

III 学外発表論文題目，著者題目一覧

前年10月1日～本年9月30日の間に印刷された学術論文，または著者について一覧を掲載する。

1. 掲 載 内 容

内 容：著者名，論文題目，雑誌名，巻，ページ，年

著者名：論文に発表された著者すべてを掲載順に載せる。理科大学教員名はゴシック体とし，学外教員と区別する。

表題名：先頭文字のみ大文字とする。

雑誌名：省略名を用い，各単語の先頭文字のみ大文字とする。

巻 : 数値下部に波線を入れる。

(例)

H. Honda and S. Alda : Analysis of multivariate medical data by block method.
 Patt. Recogn. **15**, 231—242 (1982).

関 昌彦, 藤村貞夫, 望月 仁 : 航空機による多重分光走査画像の幾何学的ひずみ
 補正, 計測自動制御学会論文集 **18**, 64—70 (1982).

2. 掲載順序

学部あるいは学科別とせず, 分野別の掲載とし, 分野内では提出者姓名のアルファベット順とする。

3. 分野の掲載順

A分冊

数学, 物理, 化学, 生物, 地学及び地球物理, その他の理学, 計算機, 電子, 機械, 工業化学, その他の工学。

B分冊

文学, 人文・社会, その他。

4. 申し込み

所定の用紙を用いて10月15日までに紀要委員へ申し込む。共著の場合は代表者が申し込む。

IV 学術研究会要項一覧

前年10月1日～本年9月30日の間に本学教職員が中心となって開催した全国的規模, または国際的規模の学術研究会の要項の一覧を掲載する。

1. 掲載内容

研究会名称(英語名), 開催場所, 開催年月日, 講演数, 参加者数, 研究会主要幹事名(本学教職員は黒大文字), 主催協賛等の学会名。

2. 掲載順序

Ⅲに準ずる。

3. 申し込み

所定の申し込み用紙を用いて10月15日までに紀要委員に申し込む。

「別紙1」

原稿・校正指定記号

| 原稿の指定方法 | 校正指定 | | 意味 | 仕上り |
|---------------------------|-------------|---------------------------|--------------|-----------------------|
| | 欄外 | 行中 | | |
| <u>alice</u> | (大) | (cap) <u>alice</u> | 大かしら文字 | ALICE |
| <u>ALICE</u> | (小) | (sc) <u>Alice</u> | 小かしら文字 | ALICE |
| ALICE was gone | (small) (w) | Alice Was gone | Wを小文字 | Alice was gone |
| <u>Alice was</u> | (i) | <u>Alice was</u> | イタリック | Alice was |
| <u>Alice was</u> | (b) | <u>Alice was</u> | 肉太文字 | Alice was |
| $k = 5K_i \sin\theta^*$ | (i) (sin) | $k = 5K_i \sin\theta$ | i, sinをローマ字体 | $k = 5K_i \sin\theta$ |
| $P_A = (P_b + P_c)^n$ | (f) | Alice was | wasを細文字 | Alice was |
| $F(h, \omega)$ | 上つ 下つ | $P^A = (P^b + P^c)^n$ | 上つき, 下つき | $P_a = (P_b + P_c)^n$ |
| | キ | $F(h, \psi)$ | Wをωのギリシヤ文字 | $F(h, \omega)$ |
| | e | Alice | aをeに訂正 | Alice |
| | 向き換え | Alice | oをcと向き換え | Alice |
| paraphernalia | (t) | Alice | eを消す | Alice |
| Alice | (t) | paraphernalia | つめる | paraphernalia |
| free ion | (t) | Alice | lをトル, 且つツメる | Alice |
| radical | # | free ion | 空欄をつくる | free ion |
| Alice ^{was} gone | a | radical | aを挿入 | radical |
| Alice gone was | was | Alice ^{was} gone | wasを挿入 | Alice was gone |
| Alice was gone | (x) | Alice was | きたない字を直す | Alice was |
| good. The work of... | (t) | Alice gone was | 単語入れ換え | Alice was gone |
| good. The work of... | (stet) | Alice was gone | wasを復活 | Alice was gone |
| good. The work of... | 行換え | good. The work of | 段落にする | good. The work of... |
| | | good. The work of... | 段落をつなげる | good. The work of... |
| | | [Alice was | 左に動かす | |
| | | Alice was] | 右に動かす | |
| | |]Alice was[| 中心へ動かす | |
| | | Alice was gone] | 上下に動かす | |
| | o/ | true. But he was... | ., を挿入 | true. But, he was... |

(注) 原稿の指定は欄外には記載せず, 行中のみとする。
stet記号の点線は, 一旦抹消した文字の復活を意味する。

紀要委員会委員

| 職名 | 氏名 | 所屬 |
|------|---------|---------------|
| 委員長 | 田中 秀松 | 教養部, 自然系 |
| 副委員長 | 中力 真一 | 理学部, 応用物理学科 |
| 〃 | 宮垣 嘉也 | 工学部, 情報工学科 |
| 委員 | 今村 喜一 | 大学院, 理学研究科 |
| 〃 | 〃 | 理学部, 生物化学科 |
| 〃 | 須藤 清一 | 理学部, 応用数学科 |
| 〃 | 重富 康正 | 理学部, 化学科 |
| 〃 | 関 達也 | 理学部, 基礎理学科 |
| 〃 | 細川 智生 | 大学院, 工学研究科 |
| 〃 | 〃 | 工学部, 機械工学科 |
| 〃 | 大寺 純蔵 | 工学部, 応用化学科 |
| 〃 | 大倉 熙 | 工学部, 電子工学科 |
| 〃 | 西川 高史 | 教養部, 人文・社会系 |
| 〃 | 藤高 邦宏 | 教養部, 保体・語学系 |
| 〃 | 松本 卓三 | 教養部, 教職・学芸員課程 |
| 事務局 | 図書館 総務課 | |

岡山理科大学紀要 第29号B (人文・社会科学) 1993

平成5年10月10日編集

平成6年3月1日印刷

平成6年3月31日発行

| | |
|-------|---|
| 加 計 勉 | |
| 発 行 者 | 岡山理科大学紀要委員会 (代表者 田中 秀松) |
| 発 行 所 | 岡 山 理 科 大 学 〒700 岡山市理大町1-1 電 話 086-252-3161(代) |
| 印 刷 所 | 西尾総合印刷株式会社 〒701-11 岡山市津高651 電 話 086-254-1111(代) |